



みことばを信じて、これからも 祈り続けていきます

横田 早紀江



みなさん、こんにちは。寒い春でしたけど、ようやく温かい日差しになって、ほっとしております。だんだん年を取り、これまであまり病院で自分の体を診てもらおうという事はなかったのですが、右の膝がすごく痛くなって、足を引きずって歩く感じになり、昨日、整形外科に行ってきました。レントゲンを撮って診ていただいたところ、「骨は大丈夫です。歩けなくなるような骨の状態ではありませんよ」と言われました。

歩き過ぎだなど自分でも感じていたんです。年がら年中、忙しく走り回っている生活なもので、気をつけなければとは思っていたのですが、太腿の正面の筋肉がものすごく硬くなっているということで、足を曲げるとき、筋肉がうまく動かなくて骨に引っかかるような形になり、骨が変形してきているということでした。

3つくらいの運動を教えてもらって、リハビリをしています。そんなことで老いの症状が出てきましたけれど、あとは元気に何とか頑張っています。

主人（滋さん）のほうは相変わらずですが、4月4日で入院して1年がたちました。半年くらいまではボーッとした感じで難しいかなと思っていたんですが、最近はずいぶんこやかで、「みんなによくしてもらって感謝よね」「長い間大変だったから、今は休息させてもらっているんだね」などと言いますと、「そうだ…」と言うようにうなずきます。「食べたい」と言いますが、「唾液が溜まってくると知らないうちに気管支に入っていくので、気をつけてください」と言われており、食べることができません。あんまりかわいそうなので、はちみつを綿棒にちょっとつけて舌にのせてあげましたら、そのあと熱が出たらしくて、それもいけないんだなど気をつけるようにしているような状態です。五感でわかる状態なのに何もできないというのは、植物状態というのはまた違った苦しみや忍耐がありますね。でも、よくここまで回復したと感謝しています。

帰るときには、みことばを書いた紙を見せて、読んでから帰ら

す。そのくらいのことしかできません。

拉致問題はますます難しい状況になっていますが、今朝、詩篇33篇を読んでいて、ああそうだなと思わせられました。

「主が仰せられると そのようになり 主が命じられると それは立つ。主は 国々のはかりごとを破り もろもろの民の計画をくじかれる。主のはかられることは とこしえに立ち、みこころの計画は代々に続く。幸いなことよ 主を自らの神とする国は。神がご自分のゆずりとして選ばれた民は」(9-12節)

19年という長い年月、祈り会を重ねてきていただいています。私自身、この祈り会で育てられてきたことを思います。お一人お一人の祈りによって今日まで守られてきたことを本当に感謝しています。主人も私も弱ってくると、いつ消えるかわからない人間のはかなさを感じ、身近な人々に何とも言えないおしさを覚えて、互いに思いやっけていかななくてはという思いになります。拉致問題はこれから先、まだどうなるかわかりませんが、みことばを信じて、これからも祈ってまいりますので、よろしく願いいたします。

(2019年4月18日の定例祈り会より)